

開発教育ワーキンググループ発足



4月2日に行われた第1回勉強会

ず、プロジェクトメンバー間における勉強会を月に一度（原則第1日曜日）開催します。また、年に一度はワークショップ（昨年11月27日に立教大学・田中治彦教授をお迎えしてログハウスで開催された開発教育勉強会）を開催したいと考えています。

4月2日に行われた第1回W・G活動には11人が参加し、「軍隊を捨てた国コスタリカ」の

MIFAでは、今年度から新たな勉強会として、「開発教育ワーキング・グループ（W・G）」が発足しました。

このグループは、国際理解や国際協力をはじめ開発・環境・人権・平和などをテーマに、継続的に学習する機会を設けることを目的としています。

今年度は、手始めとして開発教育に関わるさまざまな学習会・シンポジウムへの参加を行うこととし、ま

ビデオを鑑賞。その後、開発教育全国集会沖縄大会に参加された河内さんから大会報告を受けました。

意見交換では、教育から見る日本の子どもたちの現状、コスタリカとの比較など活発な意見が交わされました。

W・Gではプロジェクトメンバーを募集しています。申し込みはメールで、mifa@fureai.or.jpへ。

2006年4月～8月の主な事業

- 4. 2 開発教育ワーキンググループ勉強会
- 4.22 JICA筑波国際センター一般公開参加
- 4.30 守谷市国際交流協会理事会
- 5. 8 日本語講座講師講習会
- 5.10 第34回外国人のための日本語講座
- 5.20 国際交流ミニサッカー大会参加
- 5.28 2006年度MIFA総会

- 6. 4 開発教育ワーキンググループ勉強会
- 6.10・11 JICA研修員ホームステイ
- 6.10・11 守谷市青少年海外派遣事前研修会
- 7. 2 開発教育ワーキンググループ勉強会
- 7.12 外国人のための日本語講座修了式
- 8.19・20 北守谷地区夏まつり出店
- 8.26・27 きらめき守谷 夢彩都フェスタ2006出店

2006年度 MIFA総会



5月28日午後1時から、ログハウスで守谷市国際交流協会2006年度総会が行われました。参加者は、昨年より少ない33人でした。

会長挨拶、来賓として出席された市役所寺田次長の挨拶と市長のメッセージ紹介のあと、議事に入り、2005年度活動報告および決算、監査意見が承認されました。その後、役員の一部変更（青年交流および日本語講座委員長が交代したことにより、新たな理事として櫻井友香氏・飯田孝道氏が就任。また、2人の理事から退任の申し出があった）が承認されました。続いて2006年度事業計画および予算が可決されました。

議事の終了後、平成17年度ラオスプロジェクトの成果および2006年度守谷市青少年海外派遣について報告が行われました。

2006年度予算（収入）

科目	予算額(円)	備考
会費及び補助金	2,370,000	年会費/守谷市国際交流基金から
事業収入	1,338,000	語学講座・コンサート参加費など
雑入	16,000	預金利子など
繰越金	356,342	前年度繰越金
合計	4,080,342	

2006年度予算（支出）

科目	予算額(円)	備考
事業費	3,199,000	各専門委員会事業
旅費	100,000	交通費
役務費	74,000	保険料
事務費	459,000	事務用品・郵送料
慶弔費	10,000	
備品購入費	20,000	倉庫棚・塗料等
繰出金	120,000	周年・記念事業準備基金など
予備費	98,342	
合計	4,080,342	

総会の終了後、元JICA筑波国際センター所長の森本勝氏が、「国際交流とNGO」と題して講演を行いました。ODAの現状、タイ・ラオス・カンボジアについての国際協力の具体的な紹介があり、有意義なアドバイスをいただきました。

その後、懇親会を行い、午後4時30分に閉会しました。



講師の森本 勝さん

小川会長挨拶



皆さん、こんにちは。

守谷市国際交流協会も再来年には設立20周年を迎えます。もう20年も経つのかな、という感じで総会を迎えました。総会に出席する人は少ないが、県下でも守谷市交流協会の事業は注目されています。3月10日には、茨城県国際化推進奨励賞をいただきました。普通

は受賞は一度だけですが、当協会は二度目です。さまざまな事業を行っていることが評価されたわけですが、特筆すべきはラオスプロジェクトです。この事業はJICAと一体となって「草の根技術協力事業（地域提案型）」ということでラオスの教育関係者を守谷市に招いて研修してもらう事業です。大きな自治体の行政主導ならともかく、市民主体で活動している団体が請け負い実施するということは大変なことで、ほかには例がありません。そういうことで守谷市の活動は注目を集めていますが、それをこの協会の人たちはざらりとやってしまう。ところがそんなすごいことをやっているという意識が本人たちにはあまりありません。先般、ラオスの研修員の方を訪ねました。研修で得た成果を確認するためです。日本では当たり前のことが、ラオスでは貴重なアドバイスになっていることを実感しました。いろいろな意味で相互の理解を深めることに役立った事業であったことを実感してきました。

国際交流協会の原点は自分が楽しむことです。そして楽しむと同時に一緒に汗を流してほしいと思っています。今日の総会で何かをつかんでいただければと思い、挨拶といたします。

国際交流ミニサッカー大会



5月20日、常総運動公園で、国際交流ミニサッカー大会が行われ、守谷市国際交流協会は焼そばを作ったり、フランクフルトソーセージをポイルするなど昼食

の支度を手伝いました。
在住外国人（21カ国、55人）を含め14チーム、157人が競技に参加。協

会を含むボランティアスタッフや市職員が30人、そのほかスポーツ少年団保護者などを合わせると400人が集まる一大イベントでした。

また、今年はFIFAワールドカップがドイツで開催され、守谷市とドイツのマインブルク市が姉妹都市を結んでいることなどからドイツ大使館が後援、JICA筑波が協賛するなど、国際的な大会になりました。



JICA研修員 ホームステイ



「原料の麦やホップの輸入先はどのように決めて、契約はどのようになっているのか？」「輸入先はどこなのか？」など専門的な質問が出され、内容の濃い見学会となりました。



6月10日、11日、もりやアヤメ祭りにあわせてJICA研修員ホームステイを行いました。研修員の参加国は、モンゴル3人、マダガスカル2人、スリランカ1人、ネパール1人、バングラデシュ1人の5カ国、8人。受入家庭は7家庭でした。

10日のアサヒビール工場見学は、時間をオーバーしたほど好評でした。研修員は発展途上国から日本に短期間学びにきている農業関係の研究者が多いせいか、

11日は、アンケートを見ると、家庭でくつろいだり、ショッピングに出かけたり、巻き寿司を一緒に作ったり、東京に行ったり、各家庭思い思いのもてなしで過ごしたようです。中には、「国の代表で来ているのだから、自分の国を知ってほしい、日本の文化を知って帰りたい、という貪欲さを持ってほしい」「会話を楽しめなかった。勉強のためのみ日本に来たみたいで、日本に興味がないようだ。期待していただけにがっかりした」といった辛口の意見もありました。

1泊2日の短期ホームステイ。互いの緊張感が解けて心を通わせるのには、短いかと思われそうですが、次回も受け入れてくださるとのこと。快く受け取れたホストファミリーの皆様には心より感謝申し上げます。

TXイベントで MIFAの活動を紹介



8月26日、27日に行われた「きらめき守谷 夢彩都フェスタ2006」に参加しました。

TX開業1周年を記念して行われたイベントは、守谷駅西口駅前広場を会場に75ブースが並び、夏休み最後の週末を楽しむ親子連れなどで賑わいました。

ステージではよさこいソーラン踊り守谷大会、中国雑技団の曲芸などが行われ、国際交流協会のブースは活動を紹介するパネル展示、ラオス民芸品やグリーリーのボールペンの販売を行いました。パネルを見て協会の活動に興味を持った方から説明を求められるな



ど、回を重ねるごとに充実した内容となっています。

国際交流員のリヒッターさんによるドイツのクイズも好評で、別の機会にもこのような企画で参加いただければと思いました。

JICA筑波一般公開

4月22日、JICA筑波国際センター一般公開に、国際協力・交流団体として出展しました。

これは科学技術週間行事の一環として4月21日、22日の2日間センターを解放するもので、団体のPRはそのうちの22日だけです。当協会は、パネル展示（ラオスプロジェクト、姉妹都市関連）・資料の配布・グッズの販売を行いました。

各ブースには、国際交流団体のほか、JICA、JICE、JICA研修員による国別のブースや民族衣装試着コーナーもあり、2日間で500人の入場者がありました。



せっかくの機会なので各ブースを回りましたが、知らない団体もあり、情報を入手し、今後の参考にしたいと考えています。このような催しには積極的に参加するべきだと思いました。

青年交流
委員会

夏祭りに出店



8月19日、20日の北守谷地区夏祭りに青年交流委員会が出店しました。

昨年まではダーツでしたが、今年は「ヨーヨー釣り」でした。競合する店があると聞いたので、ヨーヨーだけでなくカプセルの中に景品交換券を入れ、釣り上げた人には用意した景品と交換できるよう工夫したため、客足が絶えることはありませんでした。

初めは発電機が不調で流水が起こらず手で流れを作るなど大変でしたが、途中からは電動水流機も順調に動いてくれました。ただ、思った以上にお客さんが多く、ヨーヨーは手仕事で膨らませるので、最後までヨーヨーと紙漕り作りに追われました。それでも今年グリーンリーに派遣された学生も全員参加してくれたので交代で作業ができ、2日間で6万円の収益を上げるなど頑張りました。

この収益はスリランカの学生の就学を援助している団体を通じて、奨学金として送られます。

MIFA
サロン



ふじみさんのお話

9月3日、ログハウスでMIFAサロン「日系ブラジル人ふじみさんのお話～二つの祖国に想いを寄せて」が行われました。お天気にも恵まれ、予想していた以上に多くの方が参加されました。



まず、スクリーンプロジェクトを使って日系ブラジル人の移民史が語られ、明治時代、貧しかった日本から移住した移民の苦労を改めて知りました。ふじみさんは、波乱万丈な個人史を隠すことなく誠実に紹介されました。その後、ブラジルの国民食「フェジョン」のレシピの紹介、試食と続き、初めて食べたフェジョンはとてもおいしく、お代りする人もいてご飯が足りなくなってしまうました。

ブラジルのお菓子が出されたティータイムも楽しく、有意義な一日となりました。



久保副会長 逝去

六月二十八日、久保昌也副会長兼総務委員長が逝去されました。

久保副会長は、総務委員会二代目委員長として国際交流協会の庶務的業務を一手に引き受けられ、市役所、JICAをはじめ関係団体との窓口も務められるなど協会にとってもかけがえのない存在でした。なにかあると「ぼくがやります」と嫌な顔一つ見せず引き受けられていた姿が思い出されます。

ここに慎んでご冥福をお祈りします。